

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570200636
法人名	医療法人 与州会
事業所名	グループホームウエルネス
所在地	宮崎県都城市上東町26街区1(電話)(0986)-24-0167
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月7日

【情報提供票より】(平成19年5月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 8月 30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11, 6

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート耐火建築 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃一ヶ月分)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢 平均	89 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人与州会 柳田クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域で生活してきた利用者の人生を、継続支援することを理念にし、職員が連携しあって日々支援している。地域との交流が深まり、ホームに対しての地域からの期待度も高まってきている。利用者全員で楽しめるレクリエーションや機能低下防止のリハビリにも力を入れ、サービスの質向上に工夫を重ねている。夜間の災害時の対応対策のために、全職員参加しての避難実地訓練を行っている。医療施設が隣接しており、健康管理の連携が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	積極的に外部評価を受け、改善に全職員で取り組んでいる。家族向けのみだったホーム便りも地域発信へ拡大し、地区自治会にも加入し、積極的に家族や地域との関わり改善・構築に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	定例会議の都度、管理者が評価意義を説明し、全職員で確認、共有し、改善に取り組み具体化している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	隔月毎に開催しサービスの提供状況や、その都度のテーマに即して検討・協議・評価をしている。公民館長より、公民館便りにホーム発信の認知症や高齢者の疾病等の理解を促す連載の記事要請があり、地域におけるホームの役割が拡大し期待が寄せられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等と運営推進会議やカンファレンス、訪問時等、気軽に意見や要望が聞ける関係づくりを行っている。年4回のアンケートや意見・苦情・相談窓口も設置され、意見等は運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、ホーム周辺の清掃を利用者や職員で行っている。利用者と共に地区での買い物や、ボランティアの訪問など、徐々に地域との交流が深まっている。地区の作品展に初出品の予定で、利用者は楽しみつつ創作している。

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員ひとり一人が理念を考え提案し、職員の総意により作り上げられた理念であり、地域で生活してきた利用者が、人生を継続されることを支援する等をうたったものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、協議の都度理念を確認し合い、理念に即したケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、地区の一斉清掃では利用者及び職員が、ホーム近辺を掃除し、地域との交流に努めている。地区の作品展に初参加予定で、楽しみながら創作している。利用者と共に地区の食料品店で食材の買い物をするなど、地域との関わり馴染みをつくる機会をもつようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の都度外部及び自己評価実施の意義理解に努め、家族向けのみだったホーム便りを地域交流促進・啓発へと拡大しており、また意見・苦情受け箱の設置等具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に開催している。その都度のテーマで協議し、サービスの実施報告など行っている。公民館長より地域啓発として認知症や高齢者の疾病理解促進の記事を公民館だよりに連載依頼され、管理者が準備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域福祉権利擁護事業 あんしんサポートや市主催の研修等に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活を、写真を組み入れた季節毎のホーム便りで、具体的に家族等へ伝えている。金銭管理報告は定期的に家族等へ行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、家族、公民館長、市職員、ホーム職員で議題にし、相談・苦情等を出していただくための対応を検討している。その結果年4回、無記名の全員のアンケートを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の安心感持続のために、職員の異動、離職は必要最小限となるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講した職員は、全職員に復命し、内容を共有し、ケアの質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の交流で情報交換や研鑽が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時の説明・協議においては、利用者や家族の不安緩和に努め、利用者の今までの習慣より希望を入れながら、安心してホームで生活できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を自分の家族同様に接し、常に利用者の立場を第一に考えながらケアしている。職員は利用者から昔の料理法を学んだり、利用者の人生体験から助言を受け力づけられたりなど支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族と方言交じりの日常のやりとりの中で、またカンファレンスの中で、利用者や家族等の希望や要望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等とのカンファレンスでの意見や要望・検討内容等を利用者本位の介護計画に組み込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を基本的には3ヶ月・6ヶ月で見なおしているが、必要時又は毎月の会議時でも見直し検討するなど、常に利用者の必要なケアができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の馴染みの散髪屋やあんまさんを家族が手配したり、連れてくるのを柔軟に対応している。	○	地域の中のグループホームとして困りごとや相談の拠点としての役割を検討してほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者の主治医やかかりつけ医を把握し、必要時に適切に気安く受診できるよう配慮している。必要時には日頃の情報を受診先へ提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関の医師やホームの看護師が利用者や家族に対して、病状の説明を行い、対応について話し合っている。この話し合いの状況を全職員間では会議等で共有し、統一したケアが行えるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の行動を強制的に中断させないよう、ことばにも配慮し常に利用者を第一としたケアに心がけている。居室を間違えないための目印としての写真掲示も利用者や家族等の意向に沿っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制したプログラムではなく、利用者個々の状態、行動に応じた日々の暮らし方をしている。チラシで張り絵を作ったり、希望にそった過ごし方の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに利用者の好みを聞き入れたり、菜園で収穫したものを利用したり、安全見守りの中で食事の準備や片付けもしている。職員は介助しながらゆったりと方言で声をかけながら、なごやかな雰囲気と一緒に同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自宅で入浴を拒否していた利用者が職員の声かけで楽しんで入浴するようになった方もいる。入浴は一人ずつで所要時間も好みにしている。安全面から夜間の入浴はしていない。	○	利用者の入居前の生活習慣によっては、午後や夕方の入浴ができるように検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々を楽しむ変化があるように年間行事を立てている。生活歴を活かした菜園づくり、創作など個々の機能に応じた役割や分担も含め支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常々利用者の外出希望把握に努め、希望に添ったドライブや買い物、散歩など行えるようにしている。利用者は行きたい所に行けるのでそれぞれが楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門、玄関、屋内は日中鍵をかけていない。利用者は職員に見守られ自由に庭で過ごしている。外に出られた場合は、地区の方から連絡があるようになった。干し物も自由にできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	119番通報装置を設置しマニュアルも整備されている。消防署の協力を得、消火や非難実地訓練を年2回行っている。夜間災害対応を重視し、実地訓練には休みの職員も含め当日は全職員で参加訓練している。	○	万一の場合地域の人々の協力を得られるよう、実地訓練にも地域の人々の参加が得られるよう働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて食物や茶・汁にとろみをつけたり、とろみの味も飽きないよう工夫し、またミキサー食は見た目も大切に食欲を増すように一品毎とし、必要な栄養バランス、水分確保のために細やかに配慮されている。さりげなく声をかけながら摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りなどで季節感を出すなど、さりげない家庭的な雰囲気づくりに工夫されている。ホーム全体すべての居室・共用空間が自然採光・換気に配慮され明るく広い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの品が持ち込まれ、障子の細工が施され馴染んできた生活感の懐かしさを醸している。家族等がゆっくりくつろげる広さである。		